

AO合格者インタビュー

中西悠さん (渋谷校)

上智大学国際教養学部

(出身高校：青山学園高等部)

現在、上智大学国際教養学部一年生の中西悠さん。帰国子女である彼女は従来の受験スタイルとは全く異なったトフルゼミナールでの受験を通して、夢の上智大学合格を手にした。そんな彼女に受験体験談をうかがった。



■受験が始まるまでは、どんな学生生活を送っていましたか？

私は小学2年生から5年生までアメリカのコネチカット州に住んでいました。その後日本に帰国してからは姉の後ろ姿を追ってチアリーディング部に入り毎日部活に明け暮れた日々を送っていました。チアリーディング部では部長を勤めていて、各大会で入賞、アジア大会に出場した経験もあるんです。実はトフルゼミナールに入ったのも姉の影響で、5歳年上の姉が在米中の頃に学んだ英語を生かしてトフルゼミナールで受験勉強していたのがそもそものきっかけです。姉がトフルゼミナールで受験勉強している姿がとても楽しそうだったので、私もトフルゼミナールで受験対策をしたいと思います。

■トフルゼミナールへの入塾を決意した一番の理由はなぜでしたか？

私がトフルゼミナールに入ったのは中学3年の時で、姉の影響も大きかったのですが、両親と話してせっかくアメリカで学んだ英語のスキル落とさない為にトフルゼミナールで勉強をしようっていうのが入塾を決意した一番の理由です。

中学生だったので、そのときは受験を視野に入れていた訳ではなくただ純粋に英語のスキル維持と向上が目的でした。そのおかげもあって帰国後も英語はスキルアップしましたし、上智大学に合格できたとも思います。

■初めて受けたトフルでの授業の印象はどうでしたか？

かなり前に話なのであまり覚えていないのですが、とにかくグループディスカッションが多くて、アメリカの授業スタイルに似ているなという印象が強かったです。

だから帰国子女の私にはとても合っていたと思います。グループディスカッションって先生からの情報だけじゃなくて、他のみんなからのいろいろな話が聞けるので、とても刺激になるんです。

カウンセラーさんもとても親しみやすくアットホームな塾だなという印象を受けました。こういうアットホームな環境が自分に一番に合っていると思いました。自分と同じ帰国子女や留学経験のある人が多く、カウンセラーさんも先生も海外経験が豊富な方が多いので会話が弾み、とても居心地が良い環境でした。ただそれ以上に海外経験がある人もない人もみんなが同じ方向を見て頑張っているのがとても刺激的でしたね。

トフルゼミナール

■志望校はどうやって決めましたか？

トフルゼミナールに通いだしたのは中学3年生の時でしたから、その時は具体的にどこに行きたいかは決まっていませんでした。しばらくして姉がトフルゼミナールでの受験を終え上智大学の国際教養で楽しそうに勉強している姿を見て、私も国際教養に行きたいと考えるようになりました。

何より国際教養学部は英語での授業なので、海外生活で学んだ英語にさらに磨きを掛けたい私には最高の場所でした。カウンセラーさんと相談して上智と早稲田の国際教養学部を志望校に決めました。

■カウンセラーとはどんな受験対策をしましたか？

海外経験が長かった私は一般入試よりもAO入試や公募推薦の方が向いているとカウンセラーさんに薦められ、上智と早稲田の国際教養学部を狙うにあたってどんな授業を取るべきか一緒に考えていただきました。カウンセラーさんはとても優しく受験以外の事も親身になって話を聞いてもらったので何でも話せましたね。おかげで厳しい受験の時期を一人じゃないって感じながら過ごせました。

公募推薦に必要な評定平均が足りなくてとても悩んでいた時も相談に乗ってもらえて心強かったです。面接の対策を一緒に考えて貰うときも私のことをわかってくださっていたから適切なアドバイスを頂けましたし、とにかく幅広い面で私の受験のお手伝いをしてもらいました。

■どんな授業を具体的に履修していましたか？

まずは国際教養学部が一番必要なTOEFLスコアをあげる為の授業をメインに取りました。その中でもとくに苦手だったReadingとWritingに関しては毎日しがみつ়く思いで勉強しましたね。でもつらかった訳じゃないんです。トフルゼミナールで英語を教えている先生はとてもユニークな授業スタイルで毎日楽しく受験対策に打ち込みましたから。もともと得意だったSpeakingも先生のおかげで満点の30点がとれたこととても感謝しています。夏休みに入った時にはIBT対策以外に早稲田、上智専門のAO対策の授業も取り、学校によって異なる対策方法を細かく専門的に学びました。



バニース先生と



トフルゼミナール

■とくに印象に残っている授業はなんですか？

Reading の富岡先生の授業は私の中で一番思い出に残っている授業でした。とても厳しい先生で授業内容もとにかく難しい。ただ読んで答えるだけでなく文章の本質について考える授業スタイルで作者がどういう意図でこの文を書いたのかとか、アメリカにいた時にも考えた事のないことばかりでした。とにかく出来ないのが悔しくて、今までやった事のない英文全訳に挑戦したりもしました。

最初は授業のたびに落ち込みましたが、それでも毎日奮闘していく中で、Reading の解き方や自分にあった正しいスタイルを見いだす事が出来た喜びは後に大きな自信に繋がりました。そしてとても厳しかった富岡先生を今でも“超尊敬”していますし、感謝の気持ちでいっぱいです。

合格の報告に行ったときに富岡先生から「中西さんはど根性女だから合格できると思っていましたよ！」と言って頂いてとても、とても嬉しかったのを覚えています。

■トフルゼミナールでの交友関係はどうでしたか？

実は今上智の国際教養学部で仲良くしている友人は全員トフルゼミナールの同級生なんです。みんなで絶対に志望校に受かるって約束して毎日勉強に励み笑ったり泣いたりしながら頑張った仲間です。

トフルゼミナールは私のような帰国子女や留学経験がある者同士が多く気も合いますし、そうでなくても同じなくても目標を持つ仲間が多いに刺激を受ける環境がありました。あとなかなか先生やカウンセラーさんとこんなに親しみを持って接する事が出来る塾はなかなかないと思いますよ。

■当日の面接は対策通りの質問でしたか？

カウンセラーの宇部さんと面接の対策をしているのですが、それがとても役に立ちました。対策していた通りの問題が出ましたし、かなりスムーズに落ち着いて出来たと思います。志望理由書の欄で、ある差別とスポーツがテーマの映画が好きと書いていたので、それに対して自分の考えを述べる対策を入念にしておきました。部活のチアの経験をスポーツとリンクさせて、海外生活で感じた黒人差別に対する考えをマーティンルーサーキングと照らし合わせて述べるように宇部さんと一緒に考えていたのですが、本番でその質問をされたときは“やった！”と思いましたね。

トフルゼミナール

■トフルゼミナールで勉強して良かったですか？

トフルゼミナールでの受験勉強は私にとってかけがえのないものでした。

なにより合格も親友もトフルゼミナールで手に出来たこと、これが私にとってトフルゼミナールで勉強して一番良かったと思う理由です。勉強はつらい事もたくさんありましたが、厳しく優しい先生に教えて頂いてアメリカ時代に身につけた英語を最大限に活用することが出来ました。

もちろんトフルゼミナールで学んだすべてのスキルと本質を見極める真の勉強は今も大学の授業でも生かされています。

受験生へのメッセージ

私から言える事はとにかく勉強にフォーカスしすぎない事、私自身チアは受験本番数日前までやりました。



大好きな部活を辞める事よりもいかに時間を有効活用するかを常に考えながら受験に打ち込みました。そうやっている方が実際勉強に集中出来たりするんです。

そしてなによりそういった自分らしいやり方を認めてもらえ勉強が出来る場所がトフルゼミナールだと私は思いました。

アットホームな環境で仲間を作り、毎日厳しい授業にみんなで挑んで落ち込んで、励まし合ってもっと勉強して。カウンセラーさんや先生にしつこいくらい相談や質問しに行っ、それでもみなさんが親身に接してくれて。

そんなトフルゼミナールでみんなにも夢をつかんでほしいと思います。